

主 題：世の罪を取り除く神の小羊 1  
 聖書箇所：ヨハネの福音書 1章29節

ヨハネ1：29「その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」。今日は「世の罪を取り除く神の小羊」というタイトルを付けていますが、旧約聖書を通して、私たちは前2回、神の福音について学んで来ました。旧約聖書には「影」、型があって、それが新約聖書で本物が何であるかを表わすということです。神が臨在される幕屋、聖所、至聖所、そして、契約の箱、また、神に私たちを執り成してくれる大祭司について、去年の9月、そして、今年の2月と学んで来ました。この2月の学びから、私自身の成長は老眼の進歩です。今日はたくさんのみことばを見ますが、小さい字が見えにくいのでメガネをかけてお話しさせていただくことになります。基本的には旧約聖書の創世記1～3章をおもに用います。

「世の罪」

私たちは前2回を通して、そのように旧約の型から神が人類に対して救いの道を計画してくださり、また、そのことが何を意味するものであるかを学びました。その学びを通して、聖所、至聖所、あるいは幕屋、また、大祭司というものは、すべてが新約聖書でイエス・キリストであるということが明らかにされました。そして今日は、本当は聖所、至聖所で血が流される犠牲の小羊について学びをするはずでしたが、今日のタイトルの通り、「イエス・キリストが世の罪を取り除く神の小羊」と、あのバプテスマのヨハネがアンデレとヨハネの福音書を書いたヨハネに言ったように、「世の罪」ということについて私たちはもう一度学んでみたいと思ったのです。神の救いというものがどんなにすばらしいものか、その犠牲がいかに大きかったかということを知る時に、私たちは自分たちの罪がいかに大きいものであったかを教えられます。今回は、このように人間が救いを必要とするその根本原因である罪について学んでいきたいと思えます。最初に、人間の創造、罪、そして、罪のさばきと三つの段階において学びを進めていきたいと思えます。

もし、人に罪がなければ私たちは赦しを必要とはしません。でも、聖書は「そうではない、人には罪がある」と教えています。私たち自身が罪を犯したということではなくて、人が人類がどのようにして罪を犯したのかということを見ます。そのために、まず初めに、人間の創造のところを学んでいきたいと思えます。初めに、神は天と地を創造され、最後に人を創造されました。

I. 人間の創造 創世記1：26、27、2：7-10

1：26-27「26 神は仰せられた。「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配するように。」27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。」

1. 人は神のかたちに創造された

「神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。」と聖書は言っています。最初に、神が人をお造りになった時に神が考えられたことは「われわれのかたち、われわれに似せて、」です。神はご自身のかたちとして人を創造されたのです。いったい、人はどのようにして造られたのか？人は神のかたちに創造されたと言っています。

1) 神とは？

「神のかたち」、「神」、ここに記されていることばの原語は「エロヒム」です。単数形はエルで、神の偉大さと栄光を表わすことばとしてこのエロヒムが使われています。エルは「力強い、頑強な、優れた」という意味をもっています。1章1節に「初めに、神が天と地を創造した。」とありますが、この「神」もエロヒムです。「エロヒム」、なぜ、複数形が使われているのか？先程読んだ箇所には、神が人を造るとき言われたことは「われわれのかたちとして、われわれに似せて。」と「われわれ」を使っているからです。神は唯一の存在ですが、三つの性質、位格をもっています。人間なら人格です。父なる神、子なる神、そして、聖霊なる神、三つの位格をお持ちです。ところが「創造する」ということばは単数形が用いられています。聖書が私たちに教えているのは、三つの位格を備えた唯一の神、単一の神ではなくて、三位にして一つの神、神はこのようなお方だということです。本来なら、聖書は神がどういとお方であるかということをも最初から説明するはずですが、そのようなことは一切されていません。なぜなら、この聖書は神が人類に対して書かれた手紙だからです。ご自分はずでに存在されるものとして永遠に存在されるものとして、「わたしはいる」ということを宣言されているのです。

このようにして神は人をご自身のかたちに創造されたということです。27節「神は人をご自身のかたちとして」、ここは単数形が使われています。非常に不思議なことです。「われわれのかたち」と言っておきながら、またここで単数形が用いられているのですが、「神が唯一」ということをここでさらに強調していると理解できるのです。

## 2) かたちとは？

・ **ことばの意味**＝「裁断されたもの」ということです。洋裁のとき型紙から切り取ります。木工の時もそうです。裁断して形を作る、そのような「形をもった物体、輪郭を表わす」というのがもともとの意味です。

・ **ここでは目に見える形（物質的）ではなく、霊的かたち、すなわち、神の本質、道徳的性質**＝ところが、実際は物質的なかたちではなく霊的なかたち、神の本質、あるいは、道徳的な性質のかたちに造られたということです。

### a) 神は霊的存在である

ヨハネ4：24に「神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」とある通りです。

### b) だれも見たことがない

同じヨハネ1：18には「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」と記されています。神は目に見えない、人間の目には確認することができない存在だと言います。

### c) イザヤの見た神

ところが、ただ一人イザヤはこのように言っています。イザヤ書6：1-3「:1 ウジヤ王が死んだ年に、私は、高くあげられた王座に座しておられる主を見た。そのすそは神殿に満ち、:2 セラフィムがその上に立っていた。彼らはそれぞれ六つの翼があり、おのおのその二つで顔をおおい、二つで両足をおおい、二つで飛んでおり、:3 互いに呼びかわして言っていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の【主】。その栄光は全地に満ち。」、イザヤは「高くあげられた王座に座しておられる主を見た。」と言っています。「主を見た」とはどういうことでしょうか？神は目に見えない霊的な存在であると聖書は言いながら、イザヤはその姿を見たのでしょうか？

### d) ヨハネの答え

このことについて、イエスはヨハネの福音書12：41でこのように言われたとヨハネは記しています。「イザヤがこう言ったのは、イザヤがイエスの栄光を見たからで、イエスをさして言ったのである。」と、イエスの栄光を見たのであって神のかたちを見たのではないと、これが新約聖書での答えになると言います。

#### ・ 神の本質とは？

パウロはエペソ4：23-24でこのように教えています。「:23 またあなたがたが心の霊において新しくされ、:24 真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。」ここに、罪人である人間がイエス・キリストを信じて新しくされた時に、人は新しくかたどり造り出され、そして、その時に「真理に基づく義と聖」という性質をもって「神にかたどり造り出される」と教えているのです。

#### ・ 義

「義」とはヘブル語で、yasar＝まっすぐ、mispat＝さばき、法廷用語で「公平、公正」という意味をもっています。それに対応してギリシャ語では、sedek、sedaga＝規範（神ご自身の性質）という意味をもったことばが使われています。「義」とは「人に対する正しい行動の規範」です。出エジプト記20：12-17「:12 あなたの父と母を敬え。あなたの神、【主】が与えようとしておられる地で、あなたの年齢が長くなるためである。:13 殺してはならない。:14 姦淫してはならない。:15 盗んではならない。:16 あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。:17 あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻、あるいは、その男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。」

#### ・ 聖

「聖」とはヘブル語では、gados、godes＝「離しておく、聖別する」という意味をもったことばです。ギリシャ語ではhagios ハギオス、「分離する」という意味があります。「聖」とは「神に対する正しい行動」です。出エジプト記20：3-11「:3 あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。:4 あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。:5 それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、【主】であるわたしは、ねたむ神、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、

四代にまで及ぼし、:6 わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。:7 あなたは、あなたの神、【主】の御名を、みだりに唱えてはならない。【主】は、御名をみだりに唱える者を、罰せずにはおかない。:8 安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。:9 六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならない。:10 しかし七日目は、あなたの神、【主】の安息である。あなたはどんな仕事もしてはならない。——あなたも、あなたの息子、娘、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、また、あなたの町囲みの中にある在留異国人も——:11 それは【主】が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にあるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、【主】は安息日を祝福し、これを聖なるものと宣言された。」

これは神がモーセを通してイスラエルの民に与えられた十の命令です。最初の部分は、神に対するイスラエルの人たちのあるべき姿、そして、後半部分は、人としてあるべき姿です。神は唯一だから、「わたし以外のものを礼拝してはならない。」と偶像礼拝の戒めです。そして、「みだりにその名を唱えるな。」という教えです。後半は「人を殺すな」「嘘をつくな」など、人との関係について述べられています。このようにして「聖」とは神に対する正しい行動、また、「義」とは人に対する正しい行動であると教えられるのです。

神ご自身は、ご自分について「聖である」と言われました。レビ記 11 : 44 には「わたしはあなたがたの神、【主】であるからだ。あなたがたは自分の身を聖別し、聖なる者となりなさい。わたしが聖であるから…」と、神ご自身がこのように「聖である」と宣言されています。

## 2. 神に似せて創造された

### 1) 似るとは？

神は目に見えないお方ですから、人間が神の目に見えるようなかたちで造られるということではありません。では、どのように造られたのでしょうか？

#### ・知的な性質を言う

コロサイ 3 : 10 に「新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」とあり、神について「真の知識に至る」とパウロは教えています。

また、4人の神学者は次のように言います。

#### ・ホッジ

霊の本質的属性、知性、感受性、意志を持ち、道徳的被造物として神は人を創造された。

#### ・シェーファー

造り主と交わりができる三要素＝知・情・意を持ち、他の生物とは異なって、神と交わりができる、そのような創造であった。

#### ・ボンヘッファー

人間が自由であるという点において創造主である神に似ている。

#### ・メイチェン

自由な存在として造られているからこそ、人間は神と交わりが可能とされている。

### 2) 類似性

類似性についてシーセンはこのように言っています。

・**道徳的類似性**＝義と聖という神の属性において、エペソ 4 : 24 で先ほど見た通り、似ていると言います。神は絶対に罪を犯さない、神は聖であり、そして、義なる方ですから、絶対に罪を犯すことがなく悪の原因になることはありません。ところが、それに似せて造られた「人」は、罪を犯すことができる性質を持っていた。すなわち、悪を選ぶ能力があったということです。神のように、神に似せて、神のかたちに造られたけれども、神と全く同じに造られた訳ではないのです。神は唯一のお方、絶対的なお方であり、ご自分以外に神はいないので、人をそのようにお造りになることはできません。

・**社会的類似性**＝ a) **神と交わりができる**＝神と交わるために造られました。自由がありました。神は「われわれの」ということばを用いられました。唯一、そして、三位一体なる神は、唯一の存在でありながら、父なる神、子なる神、聖霊なる神という三つのご性質、位格においてお互いに交わりを保っておられる、そのような存在であるということを知っています。神は人を造る時にそのような交わりを持つことができるようにとお造りになられたのです。しかし、アダムは罪を犯すことによって神から隠れました。

b) **人と交わりができる**＝また、神は何ものからも束縛されない絶対的な主権者です。人間にも自由を与えられた。彼らがどのように行動するのか、何を選ぶかということに対して、ロボットではなく自由な意志をもった人を造られたのです。そして、神はこのよう人間と交わりができることを願っておられたのです。

## 3. 人は生きものとなった

人はこのように造られました。それは「人は、生きものとなった。」と創世記2：7-9にそのことが記されています。「神である【主】は土地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで人は生きものとなった。：8 神である【主】は東の方エデンに園を設け、そこに主の形造った人を置かれた。：9 神である【主】は、その土地から、見るからに好ましく食べるのに良いすべての木を生えさせた。園の中央には、いのちの木、それから善悪の知識の木を生えさせた。」。この箇所、神は改めて人がどのように造られたのかを私たちに教えてくれています。すでに創造されていた多くの生き物は、やはり、土地のちりてそのからだを造られ、生き物とされました（創世記1：21）。ところが、人間が創造されたとき、その鼻にいのちの息を吹き込まれたことによって、人は「生きものとなった」と記されています（2：7）。

注意してご覧頂きますと、この「生きもの」はひらがなで「生きもの」と書かれています。それ以外、たとえば、1：21「それで神は、海の巨獣と、その種類にしたがって、水に群がりうごめくすべての生き物と、その種類にしたがって、翼のあるすべての鳥を創造された。神はそれを見て、良しとされた。」、ここでは「生き物」と漢字を当てています。日本語の聖書ではこのようにして区別する以外に方法がなかったと思われませんが、明らかに、他の生物と造られた人とは、いのちの息を吹き込まれることによって、違うものになったということが教えられるのです。すなわち、神のいのちの息、それによって人は他の生物とは違う部分が創造されたのです。他の生物は土のちりてそのからだを造られ、そして、そのたましいを神から与えられました。からだとたましいを持つものです。しかし、人はからだとたましいと、そして、神が望んでおられたご自分と交わりを持つ部分、すなわち、霊的な部分をいのちの息によって吹き込まれたと教えられるのです。

2章の4節から「神である主」ということばが出て来ます。そこまでは「神」ということばしか出ていませんでしたが、2章4節から「神である主」という名前が出て来ることを記憶しておいてください。人間は自由意志によって神を礼拝できることができるようになった。そして、神はこの創造された人間をエデンの園に置かれたと8節に記されています。エデン、これは「楽しみ、究極の楽しみ」という意味です。また、もう一つは「水が潤っている」という意味を持ったことばです。この園というのは、垣根を作ってそこを区切るという意味ですから、神が人のために造られた人の住む所は、神によって準備された究極の楽しみのある所、しかも、それはしっかりと神によってガードされた場所であると見ることができます。そして、神はそこに「見るからに好ましく食べるのに良いすべての木を生えさせた。」、人として生きていくためにこれ以上の環境はない、そして、人はまた、神に似せて造られたと、そのような状況に置かれたということを見ることができるとは思います。

しかしながら、何の不自由もないすばらしい理想の場所に置かれた人が、また、理想的に造られた、神の望まれる通りに造られたその人が罪を犯すということを見ることができるとは思います。人は罪があったから罪を犯したのではありません。最初に罪はなかったのです。無邪気だったのです。けれども、人は罪を犯しました。いったい、人はどのように罪を犯していくのでしょうか？その前に「罪とはどういうものなのか」を、私たちはもう一度確認して学びたいと思います。

## II. 罪

ローマ3：23には「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、」とあります。すべての人は罪を犯した、例外はないと教えています。どんなに汚れのない、そして、純粋な生活をして大人になっても、例えば、生まれたての赤ちゃんであっても罪があると聖書は教えています。

### 1. ことばの意味

罪とは何でしょう？創世記4章7節に聖書の中では初めて「罪」ということばが出て来ます。ヘブル語でhatta' a (hatta' t) ということばが使われていて、その意味は「的外れ、失敗、罪」などで、その他に「違反、不法、不義、墮落」などを意味する多くの「罪」を表わす概念をもったことばが使われています。基本的には「罪とは神との正しい関係が損なわれている」、そのような状況を罪だといいます。ローマ5：18-19では次のように教えています。「こういうわけで、ちょうどひとりの違反によってすべての人が罪に定められたのと同様に、ひとりの義の行為によってすべての人が義と認められ、いのちを与えられるのです。：19 すなわち、ちょうどひとりの人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、ひとりの従順によって多くの人が義人とされるのです。」、ひとりの違反、ひとりの人の不従順によって全人類に罪が入って来たと聖書は教えています。

#### 1) 罪とは神の律法（ルール）を破ること

律法とは神（絶対権力者）の意志の現われです。すなわち、創造主と被造物の関係を遵守し、みこころに従うことが造られた人間に求められることでした。Iヨハネ3：4には「罪を犯している者はみな、不法を行っているのです。罪とは律法に逆らうことなのです。」と書かれています。新約聖書のギリシャ語

では、「罪」についていろいろなことばが用いられています。Hamartian、anomia（ヘブル語では awon = 不義、咎）、hamartia（ヘブル語は hatta' a=的を外れ、失敗）で、一番多いことばは、hamartia で、これは先ほど見たヘブル語のハッターに該当することばです。「的外れ、失敗、横道に逸れる」という意味もっています。「咎」とは刑罰に値すること、さばきの下にあることです。

## 2) 罪の概念

罪の概念は、・目標をはずす ・境界線を越える ・声に聞き従わない ・まっすぐに立っているべき所を倒れる ・知っているべきことを知らない ・完全になされるべきことが不十分 ・律法を守らない、このようなことが罪である、すなわち、神との正しい関係が破壊されているということです。

それでは、このように神に似せて、神のかたちに造られた人間が、いったいどのようにして罪を犯していったのでしょうか？

## 2. 最初の人アダムが罪を犯した経緯 創世記 2 : 16-17、3 : 1-7

### ・神は人を「エデンの園」に置かれた

そして、ただ一つのルールを設けられました。創世記 2 : 16 「神である【主】は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。」、先ほども言ったように、エデンの園という素晴らしい環境があって、見るからに好ましく食べるのに良いすべての木が生えていました。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、…」と神は言われます。あなたには自由がある、どれを取って食べていい、しかし、そこに一つの規範が引かれたのです。17節「しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」と。園の中央にいのちの木と善悪の知識の木が生えていることを見ましたが、神はその善悪の知識の木から取って食べてはならないと言われたのです。いのちの木から取って食べてはいけないとは言われていません。なぜ、神はそのようなことを言われたのでしょうか？

すべてのものを自由に取って食べてもいいその自由をあなたに与える、けれども、わたしとあなたの間たった一つのルールを置きましょう、それは善悪の知識の木の実を取って食べてはいけないということ、神はそのように命じられました。この木の実がいかなるものであるか聖書は詳しく記していませんから、私たちの知ることはありませんが、「善悪の知識の木」は口語訳聖書では「善悪を知る木」と記しています。「知る」とは、「知的に知る」と「体験的に知る」という二つの意味がありますが、ここでは「体験的に知る」という意味のことばが使われています。善悪の知識の木の実を取って食べるなら、あなたは悪を体験することになる、そのような木なのです。「それを取って食べてはいけない。それはわたしの判断することだから。」と神は暗に人にそのように言われたのです。これが神のルールでした。ところが、人はその木の実を取って食べてしまうのです。その結果、人は死へと移っていくのです。

### ・サタン（ヘブル語では反逆者）に対するエバの答え

創世記 3 章 1-7 節を見てください。蛇のかたちを借りたサタンと、神がアダムの助け手として造られた女との会話が出て来ます。「:1 さて、神である【主】が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」:2 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。:3 しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と仰せになりました。」:4 そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。:5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」:6 そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。:7 このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。」

神が人と結ばれた契約、規律はたった一つでした。ところが、蛇がエバの所にやって来て言うのです。2 : 4 に「神である主」ということばが書かれていますが、このエバと蛇と会話にはこのことばが一切出て来ないことに注意してください。彼らが使っているのは「神」です。

人は神が設けられたルールを破りました。

### a) 神に対する中傷に耳を傾けた 3 : 1-2

「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」と、蛇は女にささやくのです。神はどの木からでも取って食べてよいと言われました。ところが、ここで否定形を使います。「園のどんな木からも食べてはならない、」と。しかも、「神は、ほんとうに言われたのですか。」とエバの心に疑いを生じさせるように、巧妙に質問を変えてささやくのです。2 節のエバの答え

を見ましょう。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。」、神は「どの木からでも思いのまま」（2：16）と言われましたが、エバの答えにはこの二つのことばが欠けています。すでに蛇の思惑に嵌っているということです。

#### b) 神のことばを疑った 3：3-5

そして、3節「しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と仰せになりました。」「それに触れてもいけない」と余計なことばを入れて、さらに「あなたがたが死ぬといけないからだ」と言っています。神は「必ず死ぬ」（2：17）と言われました。蛇にとってチャンスが来ました。蛇は女に言います。4節「あなたがたは決して死にません。」と。「必ず死ぬ」と言った神のことばを蛇は「決して死なない」と否定したのです。ここに神の定められたルールから巧妙にエバを的から外させていく様子を見ることが出来ます。5節にあるように「あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」、あなたがたがもしこの木の実を取って食べたら、あなたがたが神のようになって神が困るから取って食べてはいけないと神は言われたのだと蛇はエバにささやくのです。

#### c) 神が禁じられたものを見た 3：6

6節「そこで女が見ると、」、エバは見ます。「その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかに好ましかった。」、神は食べるのに良く見た目にも美しいものをエデンの園に生えさせたのですが、その木をエバはもう一度見ます。しかも、「注意深く見る、じっと見つめる」ということばが使われています。いままで何気なく見ていたものを注意して見ると、本当においしそうだな、賢くなりそうだなと思わせたというわけです。「それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。」と記されています。

大きな問題点は、神に対するサタンの中傷に耳を傾けたこと、また、神のことばを疑ったことです。「本当にそのように言いましたか？決して死にませんよ。」「…そうかな…？」と。

#### d) 神が禁じられたものを渴望した 3：6

「神のように賢くなる」、それは神がされることであって、人が自分から求めてそのようになるものでは決してないということです。人はそのように造られていたのですが、エバはサタンに誘惑されて善悪の知識の実を食べ、あまつさえ、側にいた夫に与え、夫もそれを食べたというのです。

これらの一つ一つが神に対する反逆行為です。アダムは自分が神のようになれば神の拘束を受けなくて、もっとすばらしい人生が待っていると思込んだのでしょう。Iヨハネ2：16-17には「:16すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。:17世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行う者は、いつまでもながらえます。」と、このような戒めが記されています。

### 3. 人類の罪

「ことばの意味」の項で学んだように、最初の人アダムが罪を犯したことによって全人類に罪が入り込んだということです。人は罪を犯すことによって罪人となったのではなく、罪人だから、今、私たちは罪を犯すということです。もちろん、最初の人アダムは罪がなかったのですが、彼が罪を犯すことによって全人類に罪が入り込んだ、そのことがローマ書5章12-14節に記されています。「そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。:13 というのは、律法が与えられるまでの時期にも罪は世にあったからです。しかし罪は、何かの律法がなければ、認められないものです。:14 ところが死は、アダムからモーセまでの間も、アダムの違反と同じようには罪を犯さなかった人々をさえ支配しました。アダムはきたるべき方のひな型です。」、このように一人の人の罪の導入によって死が入り、その死が全人類に広がったことが教えられています。私たち全人類に罪がもたらされ、また、死がもたらされたことを見るのです。

### Ⅲ. さばき

#### 1. 罪の結果 : 死

##### ・ 神のルールは、被造物が神に従うかどうか

神は「この木の実を取って食べたら必ず死ぬ」と言われました。そのことによって人類に死が入りました。神のルールは被造物が神に従うかどうかということでした。ルールを破ったら必ずペナルティがあります。必ず死ぬと。そのことを旧約聖書と新約聖書のみことばから見ましょう。

##### 1) 旧約 : エゼキエル書18：4

「見よ。すべてのいのちはわたしのもの。父のいのちも、子のいのちもわたしのもの。罪を犯した者は、その者が死ぬ。」。旧約聖書でもはっきりと罪の結果は死ぬと言っています。

## 2) 新約 : ローマ書 6 : 23

また、新約聖書でも同じです。ローマ 6 : 23 「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」「報酬」とは「当然受けるべきもの、労働の対価としてもらうべきもの」です。だから、罪の報酬、受けるべき結果は死だと教えているのです。

### 2. 死の意味

それではいったい「死」とはどういうことでしょうか？聖書は三つの死があると教えています。

#### 1) 霊的死

神からの分離です。創世記 3 : 7-8 を見てください。「7 このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。:8 そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である【主】の声を聞いた。それで人とその妻は、神である【主】の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。」、彼らが神とのルールを破ったその結果、彼らの取った行動がここに二つ記されています。1つは、7節にあるように「彼らは自分たちが裸であることを知った。」、それまでも知っていたのですが、このとき、彼らは体験的なルール違反によって自分たちが裸であることを知り、そして、「彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。」のです。すなわち、羞恥心が芽生えたということです。

また、神が来られたとき、彼らは「神である【主】の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。」、神から隠れたのです。本来、神が求められた交わりを人が自ら身を隠すことによって絶とうとしたというのです。神に対する恐れがそこに生じたと言うのです。これが霊的な死の一つの現われです。エペソ 2 : 2 「そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。」、私たち、すでに罪赦されて神の子とされた者でも、かつてはそうであったと言うのです。

#### 2) 肉体的死

「土地のちりて人を形造り、」（創世記 2 : 7）とありますが、2 : 17 「しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」、3 : 19 に「あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついに、あなたは土に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたはちりだから、ちりに帰らなければならない。」とあるように、肉体的な死が与えられたのです。人は肉体とたましいと、霊的なものがあるのですが、土地のちりによって造られた肉体と、いのちの息を吹き込まれた靈魂とが分離するのが「肉体的死」です。肉体は土に帰り、たましいはそこから分離をすると見ることができます。ヘブル 9 : 27 に「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、」と記されている通りです。

#### 3) 第二の死

永遠に神との交わりから絶たれることです。霊的な死、神からの分離、また、肉体的な死に加えて永遠の死があると言います。死後、もう一度さばきを受けるのです。マタイ 10 : 28 に「からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。」とあり、からだもたましいも滅ぼされるところがあると聖書は教えています。また、黙示録 20 : 14-15 には「:14 それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。:15 いのちの書に名のあるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。」と書かれています。「これが第二の死である。」と。ゲヘナとハデスは死後の世界のことで、「よみ」（旧約聖書ではシェオール、伝道者の書 9 : 10 「あなたの手もとにあるなすべきことはみな、自分の力でしなさい。あなたが行こうとしているよみには、働きも企ても知識も知恵もないからだ。」）と呼ばれています。

先ほど、悪魔とエバとの会話の中で見たように、私たちは「神」ということばを何回も聞きますが、「エル、エロヒム」ということば、「神である主」ということばをそこに見ました。「主」はヤハウェということばが用いられています。口語訳聖書では「主なる神」と訳されています。新改訳聖書では「神である主」です。「神」というのは一般的な普通名詞です。私たちが「神さま」と言う場合で、どの神でもありません。ところが「主」となれば、これは固有名詞ですから「ヤハウェ」です。出エジプト記 3 章 14 節では神はモーセにその意味を教えています。「神はモーセに仰せられた。『わたしは、『わたしはある』という者である。』また仰せられた。『あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『わたしはあるという方が、私をあなたがたのところに遣わされた』と。』。『わたしはあつてある』という神だ

と言います。YHWHという4文字を用いて神はモーセに教えられたのです。イスラエルの民はその時初めて、「主である」このお方がどういう方であるか、その意味を知ったのです。

明らかに、神は人間との関係において、すでに、この時からご自分が「神である主」であることを教えられていたのです。主権者、絶対的な全能の神、創造主です。ところが、悪魔とエバの会話の中にはそのことばがないことは、明らかに、彼らは「主権者である神」ということばを意識して用いないようにして、悪魔は誘惑し、エバはその主権者である神を意識しながら「恐るる神は」と言って悪魔のわなに嵌っていったことを見ることができたのです。

### 3. 罪は全人類に死をもたした。

その結果、死が入って来たのです。罪はそのようにして全人類に入って来ました。しかし、あわれみ深い神は人間をただ死んだ状態にしては置かれなかったのです。私たちに恵みと賜物を約束されました。その恵みの賜物とは、ローマ8：1-2「1 こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。2 なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」です。

エデンの園に人を置かれた神は、人が罪を犯したその後、創世記3：15を見ると、「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」と言われました。これは原始福音と呼ばれるものです。最初に、神が罪を犯した人のために言われた約束です。わたし、ヤハウエなる神は、おまえ、サタンと女と間に、また、「おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。」と言います。そして、ここで注意すべきことは「彼は、」と「女の子孫」のことを「彼は」と言われたのです。その「彼は」おまえの頭を踏み砕くと言います。神はここで「女の子孫」を単数形を使ったということに、私たちは聖書全体を通して大きな意味を知ることができます。すなわち、エバの末、単数の子孫はイエス・キリストだということです。このイエス・キリストはサタンの頭を吹き砕き、おまえは彼のかかとかみつくと言います。明らかです。頭を踏み砕かれるなら滅びます。かかとかみついてもその人のいのちがなくなるものではありません。私たちはイエス・キリストが十字架に掛かって死なれたこと、そして、三日目によみがえられたことを知っています。天に凱旋されて、今、私たちが迎えるその時期を待っておられるのです。住まいが準備できたら「わたしはあなたがたを迎えに来る」とヨハネの福音書に記されています。

彼らは恥ずかしさを防ぐためにいちじくの葉をつづり合わせてその腰にまといました。ところが、神は3：21「神である【主】は、アダムとその妻のために、皮の衣を作り、彼らに着せてくださった。」。薄っぺらな何日かすれば枯れていく様な葉ではなくて、動物の皮で作った覆いを着せてくださったのです。しかも、そこに血が流されたことを私たちは一つの型として見ることができます。3：15、21を見ると、この時からすでに神はこのようにして救いを準備されていたことを知ります。もちろん、聖書を見ると「世界の基が置かれる前から」と記されているから、神の救いの計画は全知全能の神がすべてのものをお造りになる前に準備されていたということを知ることができます。神は人をすばらしい状況においてお造りになりましたが、残念ながら、人は罪を犯すことができる自由を用いて罪を犯してしまったのです。それは神の意に反したものでした。私たちはともすると、「どうして神は罪を犯すように人を造られたのか？ どうして罪を犯したすべての人を救われないのか？」とこのように考えますが、残念ながら、私たちにその答えはありません。神ご自身が知っておられることです。

私たちはこの神が絶対的な主権者であることを覚えなければいけません。神が「こう」とお決めになったことは絶対に「こう」です。「してはいけない」と言われたことは絶対にしてはいけないのです。神のルールを守るかどうかということが、人間に求められた神の規範なのです。幸いにして、すでに救いを得た皆さんにとっては、この最初に造られた人の義と聖なる神の性質を与えられて、新しくかたどりに造られた者として今歩んでおられることでしょう。しかし、まだ救われていない方もおられます。私たちは私たちの家族、友人、また、職場や社会において、まだ私たちと面識のない人たちの中にもイエス・キリストを信じておられない方が大勢いることを知っています。

最近、この日本でも天変地異と言われる多くの出来事が起こっています。「今まで経験したことのないような」、「観測史上初めて」ということばが並びます。特別警報まで準備されましたが、まさに、この世の末が近づいていることを見ます。鹿児島では火山の噴火がありました。そうすると昨日よりも今日、今日よりも明日と、私たちは神のそのさばきの時が近づいていることを思わせられます。どうぞ、この罪を覚えて、また、私たちは救われたことを本当に神に感謝するとともに、まだ救われないお一人ひとりのために、みことばを伝えていく機会が与えられるようにと祈り、また、願ってはいけませんか。